

武州みたけの自然と神々

国学院大学教授
神道学博士

三橋

健

神々が宿る武州みたけの自然

武州みたけの信仰を構成している要素は複雑多岐にわたっており、これを簡単に説明することは困難である。山岳は神の宿る場所と考えられ、それを尊び崇めるといふ信仰が根底にあることは確かだが、そればかりでない。日本の神々と修験道の蔵王権現、仏教の仏たちとの習合もみられ、それらが統合されて大きな聖地を形成している。これが武州みたけの信仰であるともいえよう。

しかし、今まで述べてきたように、みたけの信仰で見逃すことができないのは、何といつても自然との関係である。日本の宗教は、多かれ少なかれ、自然との関わりを持つが、特にみたけの場合、それが顕著な特色となっているように思われる。その理由は、この

霊山が動物・植物をはじめ、生きとし生ける物の生命の源となつていからである。

生命の源としての武州みたけ山

聞くところによれば、この山にはキツネ・タヌキ・テン・ウサギ・ムササビ・リスなど四〇から五〇種の哺乳類が生息するという。また一七種もの野鳥のいることも確認されている。コノハズク・ウソ・クロツグミ・キビタキ・ミンサザイ・オオルリ・ブッポウソウなどがその主なものである。このほかにカンタン・ウスバシロチョウ・トンボ・カブトムシのような昆虫類、サンショウウオ・モリアオガエルなどの両棲類、それにヒノキ・スギ・イチヨウ・ウメ・モモ・サクラ・フジ・ツツジ・ヤマブキなどの樹木、リンドウ・カタクリ・センブリなどの野草ま

でいちいちあげれば、たくさんありすぎて数えることができない。このように武州みたけ山は、悠久の太古から全ての生き物を生かしてきたし、現に今も生かしている。また将来も生かしていくにちがいない。つまりこの神山には生きとし生ける物の生命の根源がある。生きていくすべての物がみたけ山のおかげをこうむって生かされてきたことがわかる。ところが、われわれはその恩恵をいつい忘れてしまつてい

る。すべての生き物を育ててきた武州みたけ山は、ただの自然とは考えられない。古来、多くの人々がこの山のおかげで救われてきたのであり、この山で神を感得した人もすくなくない。みたけ山の一草一木に神が宿つており、滝の音や谷川の流れの響きは、神の声に聞こえてくることがある。文字通り神山・霊山である。

このことを誤解のないように補足しておく必要がある。私は山や滝がそのまま神であるといつていのではない。もとより自然物である山や滝が神になるはずはない。しかし神は山や滝とい

う自然物に姿を変えて、この世に顕現することがある。その場合、山や滝は神そのものになる。つまり神は山に化現するが、自然物が神になることはないのである。

自然の中に神を見る

このような自然と宗教との関係は、実感・霊感が基盤になつてい

からである。

私ごとで恐

縮だが、私は

毎年、この霊

山で一宿す

る機会に恵ま

れてい

る。夕方、ケ

ブルカーで登

つてくると、

カンタンの声

が、私を迎え

てくれる。その姿はみえないが、あの「ル・ル・ル・ルー」という美しい声を聞くと、さつきまで歩いてきた都会の雑踏を私はすっかり忘れてしまう。一の鳥居を通り過ぎる頃は、すっかり夕闇が濃くなつて、いよいよ深山に入ったことを感応する。そこは神々の世界である。

朝日に輝く甲籠山の峯の色に、深い感動を受け、そこに神を見たような気がした。また七代の滝の音が神の声に聞こえたこともある。これらはいずれも私のささやかな体験である。

まとめ

武州みたけ山には生命の源がある。源は人間をはじめ、全ての生き物の生命を維持する本質的なものである。

その具体的な一例として、水源としての武州みたけ山がある。前号でもふれておいたが、この山に降る雨は大地に含蓄される。その際、重要な役割をはたしているのが、樹木であり、その下にしげる草や苔などである。もし山に草木がなかったならば、降った雨は畜えられることなく、山肌をけずりと

りながら、一気に流れ落ち、濁流となつて人家や田畑を押し流す。恵みの水は洪水と化する。これは天災ではなく、人災であると私は思う。

武州みたけ山に畜えられた水は、ゆつくりと山下に流れ、里の田園を潤しながら海へそそいでいく。その間に、さまざまな生物が、この水の恩恵を受けて生かされている。そのことをわれわれの祖先はよく知っていた。その恵みに対する感謝の念を形に表したのが山上の神社である。祖先が武州みたけ山を敬愛し、そこに神をまつつてきたのは、畢竟、自分たちの生命を大切にしたいからにほかならない。

都会にはさまざまな商品が数多く並んでおり、それらをお金で手に入れることができる。しかし、武州みたけ山にはお金で買うことのできないものがある。それは現代人が忘れかけている最も大切なものである。それは何か。もとより実感してもらおうしか方法は無いが、それは生命の根源であり、ほんとうの自分自身なのである。

